

第2回旭川駅周辺かわまちづくり懇談会 議事要旨

日 時：令和4年8月24日(水) 18:30～20:10

場 所：旭川市民文化会館2階第2会議室

出席者：9名（出席者名簿のとおり）

議 題：前回懇談会の振り返り，ソフト施策・ハード施策(案)，推進体制(案)，年次計画(案)，今後の進め方

1. 議事

(1) 前回懇談会の振り返りについて

事務局(旭川市)から前回懇談会の概要等の説明を行い，出席者から以下の発言があった。

【参加者A】

石狩川は立派なサイクリングロードにより，石狩川を経由して忠別川から牛朱別川へのアクセスも可能であるが，本計画においては石狩川ルートを含めない方針ということでよいのか。

【事務局(旭川市)】

本計画は，旭川駅を拠点として忠別川と牛朱別川を活用していく考えである。

【進行役】

旭川駅から石狩川を経由して牛朱別川へのアクセスするルートは検討できないか。景色がきれいでアップダウンもなく，あまり長い距離でなければ，街の紹介や歴史を辿るようなコースにしても良いかもしれない。ルートの工夫が必要になってくると思う。

【事務局(旭川市)】

石狩川を経由して牛朱別川へアクセスするルートもあるが，事務局としては永隆橋通を北上して牛朱別川に合流するコースを考えており，今後案内が必要になると思う。

(2) ソフト施策・ハード施策(案)について

事務局(旭川市)から整備・利活用の全体イメージ(案)及びソフト・ハード施策(案)の説明を行い，参加者から以下の発言があった。

【進行役】

ラフティングの発着場所を整備することで，誰でも安全に乗り降りができるようになるのか。

【事務局(旭川市)】

現状では，忠別川上流にある既設の階段護岸からラフティングボートを下ろして出発し，下流

側に到着した際は大人 4～5 人で急勾配の法面からボートを押し上げて回収する必要があるため、利用しやすい船着場を整備するイメージで考えている。

【参加者 B】

忠別川・牛朱別川の水辺空間での新たなイベントやアウトドア利用の企画について、市民が参加できるサイクリングやランニングなどの大会が開催できると良い。

【参加者 B】

過去には川のことを学べる施設として「川のおもしろ館」があった。環境教育のターゲットが小中学生になっているが、旭川の川の歴史やアイヌ文化について興味がある大人もいると思うので、ターゲットを広げてはどうか。

河川敷沿いの休憩スポットやトイレ、水分補給できる場所も整備してほしい。

【参加者 C】

8 月中旬に忠別川をサイクリングした際、ジョギングやサイクリングをしている人がたくさんいて、色々なイベントができそうな施設が多くあると感じたが、トイレがない。途中にパークゴルフ場のトイレはあるが、あまりきれいではない。上流側にある自動販売機は橋を渡らないと利用できない。牛朱別川については旭山動物園までの案内標識があるくらいで、トイレやイベントができるようなスペースはほとんどないので、現状でイベントを開催するのは難しいと思う。

【参加者 D】

鏡池はボートや水遊びをする施設ではないが、子ども向けの SUP やカヌー教室を体験してもらうのも良い。かわまちづくり懇談会において活用方を検討し、徐々に規制緩和に繋がると良い。施設の改修が必要かもしれないが、鏡池の積極的な活用方法を考えるべきだと思う。

【参加者 E】

「旭川デザインウィーク」のイベントに合わせ、旭川市から許可を得て、鏡池で「まちなかカヌー」を開催した。天気の影響もあったが、期間中の 9 日間で 59 人の参加があり、需要はあると感じた。基本的に鏡池はイベント以外では使用できないので、規制緩和されることを望んでいる。また、きちんとしたルールの中で、グランピング等のキャンプや釣りができたら良いと思う。

【進行役】

忠別川をラフティングで約 5km 下ると、何分くらいかかるのか。

【参加者 D】

途中で止まらなければ 30～40 分くらいかかる。大人でも楽しめると思う。

【参加者 A】

本年 7 月 24 日に旭川サイクリング協会主催、旭川市後援で「100km サイクリング in 旭川」を開催した。その際に、集合場所について旭橋のたもとや北彩都、総合体育館の駐車場を想定して

いたが、最終的に東光スポーツ公園の河川敷を借りて開催した。トイレがないため防災センターの協力を得てトイレを使用した。大きなイベントを開催するスペースが河川敷にあるように見えるが、実際は駐車場やトイレなどの条件が整わないことが多々ある。かわまちづくり計画で駐車場として利用できる広いスペースが整備できたら、イベントの規模も拡大できると思う。

【参加者 A】

牛朱別川のサイクリングコースのうち、永隆橋通を走行する区間は交通量が多いので、国道に整備されているような矢羽根型の路面標示を永隆橋通に整備するのが良い。路面標示は冬期間に削れる可能性もあるので、道路沿いの電柱や街路灯にコースの表示板を設置していかないと見落としがちになる。ハード面の対策をしっかりとっていく必要がある。

旭川観光コンベンション協会が保有するタンDEM自転車は、令和2年から公道走行が可能になったものの、北海道の条例でサイクリングロードでは走行できない。今後サイクリングロードでも走行できるように上申したいと考えている。

【進行役】

市外から公共交通を利用して旭川のまちなかに宿泊する観光客には駐車場は必要ないが、市民や近隣町から車で訪れてレンタサイクルを借りる場合は何らかの工夫が必要だと思う。駐車料金が発生する場所は敬遠される傾向にあるので、レンタサイクルを借りると駐車場の特典があるようなソフト施策を実施することで地元の人にも利用されるようになると思う。

【参加者 F】

中学校の修学旅行プランの一つとして、ニセコでラフティングを行っている。生徒たちにとってラフティングは身近なものではないため、修学旅行や宿泊研修で体験できる一つのプログラムだと思っている。新型コロナの影響で、元々3泊4日だった修学旅行を2泊3日に縮小する学校が多くなっており、最初にカットされるのがラフティングである。生徒たちに修学旅行の後、アンケートを取ると、ラフティングが一番楽しかったという意見が多いので、地元で経験させることができるような手立てを講じてもらえれば、費用面でも非常に助かるというのが率直な意見である。また、ラフティングには安全を確保するためのレクチャーや、指導してくれるガイドがいて初めて成り立つと思う。生徒たちは本当に楽しみにしていて、テレビゲームよりも体を動かす体験を少しでも多くさせてあげるのが、学校としての本命だと考えている。

【進行役】

専門的な知識を持った人材が必要である。

【参加者 D】

ラフティングの更衣室は事業者と旭川市のどちらかが整備することになるのか。どちらかというところ、事業者が整備するのは厳しい。旭川駅の中に整備することは更にハードルが高いかもしれない。

【参加者 G】

旭川観光コンベンション協会が旭川駅東口でレンタサイクルを行っているが、すぐ横には売店や食堂がある状態でスペース的にも限界である。

【進行役】

ソフト面では限界があるので、ハード面で何らかの措置が必要だと思う。できるだけ知恵を絞って事業費がかからないようなアイデアが出せればと思う。

【参加者C】

市民へのサイクリングルートの認知度は低く標示もない。旭川駅の南側にはレンタサイクルの貸出の表示がない。最低限必要となる整備内容を検討してほしい。

【参加者D】

旭川駅から永隆橋通を通過して牛朱別川に向かうサイクリングコースについては、道道に矢羽根を整備するといった場合に北海道との調整が必要になってくると思うが、かわまちづくり計画には盛り込まないことになるか。

【事務局(旭川市)】

旭川市では昨年度まで、自転車ネットワーク計画の中で試験的に国道をはじめ何箇所かで矢羽根を整備している。昨年度、旭川市自転車活用推進計画を策定し、自転車利用の環境整備のほか自転車利用の促進の視点が加わったので、かわまちづくり計画の中でハード面をどのくらい注力できるかは検討が必要となる。

【参加者A】

普段自転車に乗り慣れていない人にとって、トラブルに対応できる自転車屋に関する情報があれば安心できる。忠別川の場合距離は短いですが、牛朱別川を通過して旭山動物園まで行くコースはかなり距離が長いので、途中でトラブルが発生する可能性が高くなる。

【参加者E】

大雪カムイミントラDMOで所有しているラフティングボートは旧「川のおもしろ館」に保管しているが、使用時のボート移動が非常に大変なので、川の近くに保管場所があると良い。

【参加者D】

保管場所を含む施設が、かわまちづくりの活動の拠点になるかもしれない。事業化するにあたり拠点は必要である。拠点があってそれを使用する事業者が出て、増えてくる流れだと思う。

【参加者E】

ラフティング時の着替える場所やシャワーなどの設備を整備しなければならないと思う。保管場所をどう用意するかについて腹案を持っていないが、かわまちづくり懇談会で色々意見をいただければと思う。

【参加者 A】

東光スポーツ公園に広い敷地があり、それほど遠くないので、ラフティングボートの保管場所にできるのではないかと。旭川市の浄水場取水堰の上流にあるが、トラックでボートを牽引して河川敷に持ってくるができると思う。

【参加者 D】

今後数年かけて整備を進めていくことになると思うが、川も日々変わっていくので、少しずつ川の維持管理をしていかないと、どんどん使えない状態になっていく。

【参加者 C】

忠別川の上流は、両岸に樹木が繁茂しているところが多いので、利用できるような環境整備をお願いしたい。

【進行役】

将来的にラフティングボートの台数やガイドの人数・体制について考えていく必要があるが、ガイドが旭川の歴史や川の環境について語れるようであれば、利用者にとって旭川の印象が強くなると思う。

【参加者 B】

地域おこし協力隊がガイドになるようなイメージだと思う。

【進行役】

サイクリングとラフティングが同時に事業をスタートするイメージか。サイクリングを先行して事業化するのか。

【事務局(旭川市)】

サイクリングはコース自体は既に整備されているので、すぐに実施できると思う。ラフティングについても、発着場所でのボートの上げ下げに苦労する面はあるものの、実際活動している事業者もいる。今の取り組みをもう少し充実させていきたい。

【参加者 C】

難易度は高いかもしれないが水に親しむという意味で、ラフティングだけでなく過去に旭川市主催の夏祭りに合わせて実施した石狩川の川下りのようなこともできればいいと思う。

【進行役】

きちんと安全を確保した上でやれたら面白いと思う。

(3) 推進体制(案)について

事務局(旭川市)からかわまちづくりの推進体制(案)に関する説明を行い、参加者から以下の発言があった。

【参加者H】

環境教育に関連して、環境団体と旭川市内小中学校のほか幼稚園や保育所を対象に入れた方が
良いと思う。小中学生になってからではなくて、乳幼児を連れた母親と一緒に遊ぶというのが環
境教育にとって重要である。

【参加者D】

ミズベリング旭川ではかわまちづくりを一つのきっかけとして、今後2～3年を目途にNPO
法人化を目指している。川を利用する事業者が増えていくことが賑わいに繋がっていくので、か
わまちづくりの推進体制の輪に中に入って、しっかり基盤づくりをしていきたいと考えている。

【参加者B】

市民の率直な意見を聞くことができるイベントや交流会があればいいと思う。

(4) 年次計画(案)について

(5) 今後の進め方について

事務局(旭川市)から年次計画(案)及び今後の懇談会の進め方等に関する説明を行い、参加者の了
承を得た。

【事務局(旭川市)】

本日いただいたご意見については、事務局にて計画内容への反映等について検討し、次回の懇談
会で、かわまちづくり計画書原案を提示させていただく。次回の懇談会までに意見等あれば、事務
局に随時ご連絡いただきたい。

以上